

## 「2019 春季生活闘争」討論集会（12/8）

# 格差(雇用形態間・企業規模間・男女間・地域間)の拡大、労働分配率が減少し続けている実態 「様々な課題を解消するための要求案づくり」を ～構成組織、各地区連合から 193 名が出席～



連合福島・今野会長

連合福島2019春季生活闘争討論集会は、12月8日(土)10時～ホテル福島グリーンパレスにおいて、県内の構成組織・地区連合の役員193名が出席するなかで開催された。

連合福島を代表して今野泰会長より、「先ごろ国会を通過した働き方改革関連法に働く側の視点が欠如しており大きな

課題が残る」という認識のもと、「2019春闘は、企業の収益が拡大し労働分配率が減少しているなか、どう労働者の処遇改善を行うか」また、「政治闘争においては、来年に行われる参議院議員選挙の大義を明確にしながら、比例区・県選挙区の連携をはかり勝利するか」など、当面する課題が提起された。

続いて、「連合2019年春季生活闘争方針について」と題して、連合労働条件・中小労働対策局・大久保暁子局長より講演を受けた。大久保局長からは12月4日に決定した春闘方針の中で、労働者を取り巻く環境や闘争方針にある背景について説明を受け、課題認識について、「さまざまな格差(雇用形態間・企業規模間・男女間・地域間)拡大や、継続して労働分配率が減少している実態など、様々な課題を解消するための要求案づくりをお願いしたい」と提起があった。

質問・意見・要望として、電機連合福島地協の塩澤事務局長より、「県内産業は人手不足が顕著となり、長時間残業の実態と受注に答えられない状況が続く。地域としての政策・制度改善、賃金水準改善を要望する」と提起があり。本部の回答として「地方創生に向けた課題共有および賃金の底上げ・底支えとして、地域別最賃や特定(産業別)最賃の引き上げで実現したい」と説明があった。



連合・大久保局長

進行する連合福島・  
八巻副事務局長

電機連合 塩澤さん

